

☆練馬区議会議長賞

『税金で作られる盾』

練馬区立石神井中学校 三学年 飯島 愛実

私は、大きな地震が起きたり、台風が来たりした時に、テレビでアナウンサーが「復旧作業は税金でまかなわれている」と話しているのを見たことがあります。その時まで、私は税金という言葉を「大人が払うお金」くらいにしか考えていませんでした。しかし、映し出された映像には、壊れた道路を直す作業員の方や避難所で毛布を受けとる人々の姿があり、その費用が税金でまかなわれていると知りました。

もし、自分の町が大きな災害や台風に襲われたら、学校の体育館が避難所となり、たくさんの方が集まります。毛布や水、非常食が配られ、医師や看護師の方が人が手の当てをしたり、作業員の方が倒れた電柱や壊れた道路を直したりしてくれます。それらはすべて、普段から集められている税金に支えられています。私たちは日常の中で、そうした準備の存在に気づくことはほとんどありません。けれど、いざという時、そのありがたみが一気に目の前に現れるのだと思います。

一方で、もし税金がなかったら、壊れた道路は直せず、避難所に十分な毛布や食料が届かないかもしれません。電気や水道の復旧が遅れ、寒さや暑さの中で過ごすなければならぬかもしれません。そんな状況では、人々の不安な気持ちや危険は何倍にもなるでしょう。

税金は、平和な日常を支えるだけでなく、突然の災害から私たちを守る「見えない盾」だと思います。この盾は一人では作ることができません。しかし、みんなが税金を少しずつ出し合うことで、大きく、強くなると思います。

私の姉は、静岡県三島市に住んでいます。この地域は南海トラフ地震が起こった際に津波の被害にあう可能性があります。もしそんな災害が本当に起きたら、姉やその周りの人たちの命を守るためにも、税金による迅速な支援が必要だと強く感じます。

私は将来、大人になって働き始めたら、この盾をより強くできるような人になりたいと

思います。自分が納めたお金が、困っている誰かを守り、安心を届ける力になってほしいです。いつか本当に災害に直面した時、私は税金のおかげで助けられるかもしれません。その時は感謝の気持ちを忘れず、今度は誰かを守る人になりたいです。

これからも、ニュースで災害の映像を見たときは「見えない盾」のことを思い出したいです。そして、私もその盾を支える側になれるように頑張りたいです。